

令和元年度 学校教育自己診断結果より（分析と考察）

保護者

5	授業参観の回数と時期について、複数の意見と要望が挙げられている。来年度は3学期にも参観日を設定するが、引き続き検討していく必要がある。
18	否定的回答率は22%とあまり高くないが、校舎の改修や建替え、遊具増設の要望が挙げられている。学校としてできることは限られているが、引き続き安全点検に努めていく。
22	多くの学習グループでタブレット等のICT機器を使う学習に取り組んでいるが、それが保護者には伝わっていない。効果的な学習内容と方法を考え実践する必要がある。
32	中高保護者の否定的回答率は中19%、高18%であり、さらにきめ細かな進路指導を行っていく必要がある。小学部保護者は、無回答が多かった。
35	随時更新して学習活動の様子を伝える等、保護者にとって有益な情報提供に努める。来年度は情報部を設置し、情報部員を中心にホームページの改善と充実に努める。

中・高生徒

10	教員が、障がい理解とカウンセリングマインドを、研修やOJTで身につけていく必要がある。一方で、中高生が教員に「なんでも」相談できるかどうかという疑問もある。来年度は設問（尋ね方）を検討する必要がある。
21	本校のHPを見たことがない生徒がいることがわかった。授業で閲覧方法を教える等、学習活動の中でHPを見る機会を設定する一方で、児童生徒が見たくなるような内容に改善するよう努める。

教員

1	教育課程実践研究事業で「3つの力」に重点を置いて取り組んできたため「認められ喜ばれる活動」という言葉が教員間に浸透していなかった。来年度はキャリア発達に重点を置き「認められ喜ばれる活動」を合言葉に教育活動を推進していく。
2	校長のリーダーシップのもと、首席および学部主事等のミドルリーダーが力を発揮して効果的な学校経営が進められるよう、組織の改善を図る。
13	教員から「書きにくい」という声が出ている。来年度、教務部と研究部でプロジェクトチームを作って検討し、様式等の改善を図る。
18	教員の工夫で教育環境の整備に努めているが、校舎の老朽化が進む中、教員の努力では如何ともしがたい現状である。PTAからも大阪府に要望を挙げている。
27	栄養教諭が食に関する授業を行う等、学校全体で食育を推進しているが「保護者と連携を図りながら」という点では不十分である。
30	昼休みや特別活動の時間での清掃や、健康教育部による「校内ピカピカ運動」に取り組む等、児童生徒とともに日常的に校内の美化に努めている。肯定的回答率の低さは、校舎の老朽化から、清掃してもきれいになった実感が得られないからではないか。
31	安全性に問題があると気づいたことをヒヤリハットに挙げたり、事案発生後は事故報告書で総括したりする等、安全性の向上をめざした取り組みを推進している。来年度は、定期的な安全点検の実施や、危機管理に関するマニュアルを整理していく必要がある。

